

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>地域に根ざした小児がん患者支援体制が強化され、小児がん患者のがん治療環境が改善される。</p> <p>地域に根ざした小児がんの支援体制に関しては、現地 NGO やボランティア団体、サッカークラブの協力を得、イベントなどを実施、多くのボランティアが参加した。募金も集まり支援体制が強化された。現地メディアで報道されることにより、活動への理解が深まった。</p> <p>小児がん患者家族への宿泊施設の提供により、患者家族への負担を軽減することができ、また総合支援施設には患者家族が相談に訪れ、小児がんや抗がん剤に関する質問、悩み相談に対応してきたことで患者家族にがん治療に関する理解の促進に貢献してきた。医療従事者への研修においては感染症対策について、現場に即した内容で保健局の協力のもと実施し、理解度が高まったことで、治療環境が改善された。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>(1) 小児がん患者及びその家族向けの総合支援施設設立</p> <p>① 総合支援施設（以下 JIM-NET ハウス）の建物確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院から徒歩約 5 分の場所に一戸建ての建物を確保し、総合支援施設として使用</li> </ul> <p>② 宿泊施設（以下、モーター）</p> <p>病院から 100m ほどのモーターの 1 室を借り上げ、患者家族への宿泊場所を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 室 2 部屋に分かれており、定員 4 名だが追加料金を払い最大 6 名迄利用可能</li> </ul> <p>③ 施設（JIM-NET ハウス）運営の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者家族を迎え入れ、直面する治療や生活の問題に対する相談をソーシャルワーカーが受け付け、自己資金にて貧困患者への医薬品購入支援を実施</li> </ul> <p>(2) 医療従事者や関係者の能力強化研修医療従事者や関係者への能力強化研修</p> <p>① 感染症対策研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 回研修 3 月 5 日実施（講師：リカア医師）</li> <li>・ 第 2 回研修 10 月 25, 26 日実施（講師：保健局研修担当医師）</li> <li>・ 第 3 回研修 11 月 29 日, 12 月 5 日実施（講師：保健局研修担当医師）</li> <li>・ 第 4 回研修 2 月 20 日, 21 日実施（講師：保健局担当医師）</li> </ul> <p>② ソーシャルワーカー研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 回研修 4 月 26 日, 27 日（講師：サブリーン氏）</li> <li>・ 第 2 回研修 9 月 21 日（講師：サブリーン氏）</li> <li>・ 第 3 回研修 10 月 14 日（講師：global shapers メンバー）</li> <li>・ 第 4 回研修 2 月 4 日（講師：global shapers メンバー）</li> </ul> <p>7 月に実施した千葉大学・伊藤尚子先生の専門家派遣では、看護専門学校やエルビル看護大学を訪問。教育機関から看護師の改善と看護師研修の際の研修評価基準の策定を計画。9 月の人民投票から発したクルドの混乱のためその後の渡航が不可能となり一回のみの派遣となった。</p> <p>(3) 地域住民による支援体制強化</p> <p>① 小児がんに対する理解と協力体制強化セミナーの実施</p>

- ・ ダラバーン高等学校にて小児がんに関するレクチャー実施
- ② 地域のボランティアの育成とボランティア活動の実施
  - ・ 地元のサッカークラブの協力によるイベントにおけるボランティア育成
  - ・ 地元大学生による JIM-NET ハウスでのボランティア受け入れ
- ③ 現地 NGO との連携強化に向けた取り組み
  - ・ global shapers との国際がんデーに開催したがん啓蒙活動のための会議及び実施

(3) 達成された成果

(1) 小児がん患者及びその家族向けの総合支援施設設立小児がん患者向け総合支援施設の設立

- 指標① 総合支援施設が期間内に設立される：達成
- 指標② 受入患者・付き添い家族延べ 150 名が施設を利用する：達成

JIM-NET ハウス利用者 (2017 年 1 月～2018 年 2 月) : 189 名

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
人数				40	29	18	12	11	12	9	11	12	26	9

宿泊施設利用者 (2017 年 1 月～2018 年 2 月) : 495 名

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
人数	34	68	65	49	53	24	47	36	29	22	4	0	60	4

IS (イスラム国) の影響によりモスルからの避難民が急増し宿泊施設利用者が当初の予定より増えたが、7 月の開放宣言を受け帰還する患者とその家族も増加。JIM-NET ハウスと宿泊施設の利用者は減少していったが 2018 年からはシリアから逃れてきた避難民の患者が増加傾向にある。ソーシャルワーカーによる患者家族へのインタビューや相談受付、また宿泊施設の提供は SDGs に掲げられている「3.4:2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉の促進する」という観点からも小児がんの子ども死亡率を減少させるという観点から効果的である。

(2) 医療従事者や関係者への能力強化研修

- 指標① 感染症対策
  - 第 1 回研修 参加者 7 名
  - 第 2 回研修 参加者 38 名
  - 第 3 回研修 参加者 32 名
  - 第 4 回研修 参加者 36 名

すべての回において 80%以上の理解度が得られ、感染症対策の知識への再確認及び実践の重要性を再考する研修となった。今後は現場での徹底が必要とされている。専門家派遣では教育機関から改善と研修評価基準の策定を計画し、渡航不可となった 9 月以降は現地スタッフと病院研修の評価基準に関する調査を行った。遠隔業務の中でコミュニケーションの難しさに直面したが、病院と保健省、現地スタッフが研修を実施し、研修前後の自己評価を取り入れた。感染症対策に優れた看護師が不足しており、SGDs に掲げられている「3.c」は目標に近づくための研修内容であった。

- 指標② ソーシャルワーカー
  - 第 1 回研修 参加者 14 名
  - 第 2 回研修 参加者 15 名
  - 第 3 回研修 参加者 21 名
  - 第 4 回研修 参加者 93 名

	<p><u>延べ 143 名が参加する：達成</u>  小児がんのサバイバーであるサブリーン氏をバスラから講師として招き、小児がんの子どもと接する際に留意することを医療従事者と議論し、講師自身の体験を基にした「小児がん患者への接し方 10 のレッスン」を啓発活動の際のパンフレットとしてアラビア語とクルド語で作成した。  ソーシャルワーカー育成はボランティア育成に切り替え、小児がん患者やがんに対する理解を深める活動をするボランティア団体と啓発活動の策定を行った。</p> <p>(3) 地域住民による支援体制強化  指標① 地元サッカーチームとの交流イベント開催  ※テレビ、新聞等に取り上げられる  参加者      がん患者参加者と家族 20 名                   サッカー選手たち 22 名                   ソーシャルワーカー、スタッフ 10 名  <u>選手たちがサッカーを通し、小児がんに対する理解と支援の重要性を 80%以上理解した：達成</u></p> <p style="text-align: center;">ダラバーン高等学校にて小児がんに関するレクチャー実施  受講者：8 クラス計 330 名</p> <p><u>生徒たちが小児がんに対する理解、学校に復学したサバイバーへの接し方のレクチャーを受け、80%以上理解した：達成</u></p> <p>指標② <u>世界中に拠点を置くボランティア団体「global shapers」との小児がん啓蒙活動の実施案が策定された：達成</u></p> <p>指標③ <u>現地 NGO と共に地域住民に対する小児がん理解の重要性を話し合い、国際がんデーの日にはイベントを開催。アルビル領事事務所・森安所長、外務大臣、アルビル県知事、アルビル保健局長をはじめ多くのメディアにも取り上げられ、小児がん支援の重要性を訴えることができた。多くの募金も集まり、小児がんに対する理解や支援の重要性を訴え患者やその家族にとってよりよい社会の創造のための活動を実施していくことを確認：達成</u></p>
(4) 持続発展性	<p>本年度も継続して同一施設にて JIM-NET ハウス及びモーターでの支援を継続し、並行して支援先であるナナカリ病院敷地内に総合支援施設を N 連事業として建設している。敷地内に建設することにより病院と連携して患者の利用やサバイバーの利用が見込まれる。現地提携団体でもある Kurdistan save the children へと引継ぐが、保健省管轄の病院内であることから、運営責任は保健省となる。また看護師研修を今年度はスレイマニアのヒワ病院でも実施し、エルビルのナナカリ病院の看護師能力向上を図り、医療現場で生かされる指導も同時に行う。</p>